

1 本時の指導 (1/11 時間：アナザーストーリー・起：問題把握)

(1) 本時のねらい

日本は世界でも有数の漁業国であることを知り、自分たちが食べている水産物がどこで獲られているのか調べることができる。

(2) 本時の展開

	学習内容と学習活動 ☆発問	○教師の支援 ◎評価【観点別】	対話を生み出すグループ学習に向けて
導入 5分	1 普段食べている水産物を発表し合う ・食べたことのある寿司や刺身に注目させる。 ☆普段食べている水産物はどこで獲れるのだろうか。 ・課題明示	○お寿司や刺身の写真を映し出すことにより水産業への興味を高める。	
展開 32分	めあて 普段食べている水産物はどこでとれるのだろうか 2 発表で出た水産物などから日本近海でどのような魚がとれるのか確認する ☆理科で学習した水の温まり方と海流の流れや魚の獲れる場所には関係があるのかな。 3 資料を読み取り、獲れる魚と、海流、大陸棚との関係について話し合う ・暖流と寒流、大陸棚に気が付くよう視点を与える ・日本近海が良好な漁場であることに気づかせる。 ・沖縄はマグロ水揚げ前年度3位であったことを伝える。 ・個人思考→集団思考 ・「人・もの・こと」の視点で問いを抱かせる。 ・(個人→グループ→全体) 4 全国各地で獲られた魚がどのように食卓まで届くのか予想する。 5 本時の学習を振り返り、次時への学びにつなげる。 ・本時の振り返りを書く。 ☆日本近海は魚にとって居心地はどうかかな。 6 感想発表 ・本時の学びを学習した言葉を使い発表する。	○教科書を拡大提示し、海流や大陸棚については確認して視点を与える。 ◎日本近海の特徴について考え、意欲的に調べようとしている。 【知・技】発言・ノート ○話し合う視点を絞らせる。 ○教科書の資料を読み取れるようにする。 ○次時につながる問いを持たせる。 ○板書やノートを参考に振り返るよう声をかける。 ◎学習したことを自分事として捉えている。 【主】ノート・発言	・水揚げマップから水産物が様々な地域で獲れていることを知り、その魚の種類や場所の特徴を考える。 ・多様な考えを膨らませる。(個々が考えをもった上で話し合い、考えを比較しながら深める) ・安心して表現する。(個人の考えを、グループの中で表現し、安心して全体への発表につなげる)
まとめ 8分			

2 仮説の検証

水産物が身近な存在であることを認識することにより、日本や恩納村の水産業への興味・関心を持たせることができるであろう。

1 本時の指導 (2/11 時間：アナザーストーリー・起：問題把握)

(1) 本時のねらい

日本の漁業生産量が減っていることから、その原因が環境問題だけではないことを知り、その原因について考えることができる。

(2) 本時の展開

	学習内容と学習活動 ☆発問	○教師の支援 ◎評価【観点別】	対話を生み出すグループ学習に向けて
導入 3分	1 社会科用語フラッシュ型教材 ・前時の復習と本時の意欲づけ。 2 前時の復習 ・日本近海が良好な漁場であることについて確認。	○前時の復習と本時への理解と意欲を高める。 ○教科書を拡大提示し海流や大陸棚について確認する。	
展開 前 15分	3 本時のめあてを確認する ☆漁師はどのようにして魚をとっているの ・漁の手法について予想する。 めあて 漁の方法を調べ漁師の願いについて考えよう	○実物投影機による拡大提示	
	4 漁には種類があることを整理する ・教科書や資料集から沿岸漁業、沖合漁業、遠洋漁業の3つの漁についての方法や特徴を捉えさせる。	○水産資源の減少の理由として、環境悪化、生産量の多い国があることを捉えさせる。	・グループ学習に向け知識を習得する。
展開 後 20分	5 資料を読み取る ・漁業別生産量の変化を示すグラフから水産資源の減少について読み取る。 ・世界の漁業生産量から中国が1位、日本は7位であることを読み取る。 ・200 海里経済水域による漁場制限について読み取る。 ☆水産業に携わる人たちの願いはなんだろう。 ・ 課題明示 6 水産資源の減少を解決する方法を考え、考えたことを話し合う ・ 個人思考→集団思考 ・「人・もの・こと」の視点で問いを抱かせる。 ・(個人→グループ→全体)	◎資料のグラフから水産資源の減少について読み取る。 【知・技】発言・ノート ○話し合う視点を絞らせる。 ◎水産資源の減少について理解している。 【思・判・表】ノート・発言	・主体的なグループ学習に向け、自分の考えを持つ。 ・沿岸漁業、沖合漁業、遠洋漁業のグラフから水産量が減っていること読み取り、解決方法を考える。 ・多様な考えを膨らませる。(個々が考えをもった上で話し合い、考えを比較しながら深める) ・安心して表現する。(個人の考えを、グループの中で表現し、安心して全体への発表につなげる)
まとめ 7分	☆水産資源の減少、解決するにはどうしたらいいのだろう。 7 本時の学習を振り返り、次時への学びにつなげる ・本時の振り返りを書く。 8 感想発表 ・本時の学びを学習した言葉を使い発表する。	○次時につながる問いを持たせる。 ○板書やノートを参考に振り返るよう声をかける。 ◎学習したことを自分事として捉えている。 【主】ノート・発言	

2 仮説の検証

日本における水産業の問題が恩納村にも言えることであることに気づき、個人思考と集団思考の時間を確保することにより自分事として捉えることができるであろう。

1 本時の指導 (3/11 時間：アナザーストーリー・承：問題分析)

(1) 本時のねらい

日本の漁業生産量減少の原因として 200 海里水域による他国との関係性も関わっていることを知り、その解決方法について考えることができる。

(2) 本時の展開

	学習内容と学習活動 ☆発問	○教師の支援 ◎評価【観点別】	対話を生み出すグループ学習に向けて
導入 10 分	1 社会科用語フラッシュ型教材 ・前時の復習と本時の意欲づけ。 2 前時の復習 ・水産物の減少していることについて確認。	○前時の復習と本時への理解と意欲を高める。 ○教科書や資料集を拡大提示し確認する。	
展開 25 分	めあて 水産業で働く人の願いや悩みについて考えよう。 3 漁業生産量の減少している原因について資料を読み取る ・世界各国の年間漁業生産量や 200 海里水産図から課題を読み取り解決方法を考える。 ・課題明示 4 解決する方法を考え、話し合う ☆解決にむけての課題はなんだろう。 ・個人思考→集団思考 ・「人・もの・こと」の視点で問いを抱かせる。 ・(個人→グループ→全体)	○教科書と資料集を拡大提示し確認していく。 ◎資料のグラフを読み取り課題を捉えている。 【知・技】ノート・発言 ○話し合う視点を絞らせる。 ○付箋紙を活用し考えを共有する。	・グループ学習に向け知識を習得する。 ・世界各国の年間漁業生産量や 200 海里水産図から課題を読み取り解決方法を考える。 ・多様な考えを膨らませる。(個々が考えをもった上で話し合い、考えを比較しながら深める)
まとめ 10 分	5 本時の学習を振り返り、次時への学びにつなげる。 ・本時の振り返りを書く。 6 感想発表 ・本時の学びを学習した言葉を使い発表する。	◎学習内容を理解している。 【思・判・表】ノート ○次時につながる問いを持たせる。 ○板書やノートを参考に振り返るよう声をかける。 ◎学習したことを自分事として捉えている。 【主】発言	・安心して表現する。(個人の考えを、グループの中で表現し、安心して全体への発表につなげる)

2 仮説の検証

日本の漁業生産量減少の原因として 200 海里水域による他国との関係性も関わっていることを知り、身近な問題として捉え個人思考と集団思考の時間を確保することにより解決方法を考えることができるであろう。

1 本時の指導 (4 / 11 時間 : アナザーストーリー・承 : 問題分析)

(1) 本時のねらい

水産物が届くまでに、たくさんの人が関わっていることを知り、水産業に携わる人たちの人数や年齢に注目し課題を見出すことができる。

(2) 本時の展開

	学習内容と学習活動 ☆発問	○教師の支援 ◎評価【観点別】	対話を生み出すグループ学習に向けて
導入 3分	1 社会科用語フラッシュ型教材 ・前時の復習と本時の意欲づけ。 2 前時の復習 ・200 海里水域や日本と他国の漁業生産量について確認する。	○前時の復習と本時への理解と意欲を高める。 ○教科書や資料集を拡大提示し確認する。	
展開 前 15分	めあて 魚の値段について調べ、水産業で働く人の願いや悩みについて考えよう 3 魚が届くまでの過程について確認する ・教科書や資料集から家に届くまでの仕事内容を整理する。 4 魚が手元に届くまでには、たくさんの人手が必要であることを確認する ・様々な輸送方法があることを捉える。 5 水産業に関わる人たちの年齢別グラフから課題を読み取り日本の水産業に携わる人の願いや悩みを考える ・課題明示 ・願いや悩みについて考える。	○教科書と資料集を拡大提示し確認していく。 ◎魚を新鮮なまま出荷するために、様々な仕事の工夫や努力があることを資料から読み取っている。 【知・技】発言・ノート	・グループ学習に向け知識を習得する。
展開 前 22分	☆人手不足はどう解決したらいいのだろう。 6 解決する方法を考え、話し合う ・個人思考→集団思考 ・「人・もの・こと」の視点で問いを抱かせる。 ・(個人→グループ→全体)	○全体的な人数や若い人たちの割合が低いことを捉える。 ○話し合う視点を絞らせる。 ○付箋紙を活用し考えを共有する。	・主体的なグループ学習に向け、自分の考えを持つ。 ・漁業生産量の減少と人手不足には何か関係性があるのか考える。
まとめ 5分	7 本時の学習を振り返り、次時への学びにつなげる ☆日本や沖縄、恩納村の水産業の為に自分たちが協力できることはないかな。 ・本時の振り返りを書く。 8 感想発表 ・本時の学びを学習した言葉などを使い発表する。	◎学習内容を理解している。 【思・判・表】ノート・発言 ○次時につながる問いを持たせる。 ○板書やノートを参考に振り返るよう声をかける。 ◎学習したことを自分事として捉えている。 【主】発言	・多様な考えを膨らませる。(個々が考えをもった上で話し合い、考えを比較しながら深める) ・安心して表現する。(個人の考えを、グループの中で表現し、安心して全体への発表につなげる)

2 仮説の検証

水産物が届くまでに、たくさんの人が関わっていることを知り、個人思考と集団思考の時間を確保することにより日本の水産業の課題を自分事として捉え、携わる人たちの悩みや努力について考えることができるであろう。

1 本時の指導 (5/11 時間：アナザーストーリー・承：問題分析)

(1) 本時のねらい

産地と消費者を結ぶ流通・輸送の働きについて知り魚 1 匹に掛かる費用について捉えることができる。

(2) 本時の展開

	学習内容と学習活動 ☆発問	○教師の支援 ◎評価【観点別】	対話を生み出すグループ学習に向けて
導入 3分	1 社会科用語フラッシュ型教材 ・前時の復習と本時の意欲づけ。 2 前時の復習 ・漁港→せり市場→冷凍保存・生きたまま運ぶこともある・加工工場から出発	○前時の復習と本時への理解と意欲を高める。 ○教科書や資料集を拡大提示し確認する。	
展開前 15分	3 1 匹の魚に含まれる費用について考える ・魚の値段には何が含まれているか予想する。 ☆外国の魚はなぜ安いのか。国産・外国産どちらを買いますか。 めあて 魚の値段について調べ、水産業で働く人の願いや悩みについて考えよう	○教科書と資料集を拡大提示し確認していく。	
	4 魚が手元に届くまでには、たくさんの費用が掛かっていることを確認する ・人件費、輸送費等が含まれていることを捉える。	◎資料から輸送の交通手段・日数・移動距離等を読み取っている。 【知・技】発言・ノート	・グループ学習に向け知識を習得する。
展開前 22分	5 外国産の価格の安い魚が大量に輸入されていることから日本の水産業に携わる人の願いや悩みを考える ・課題明示 ・願いや悩みについて考える。 ☆日本の魚をたくさん食べてもらうためにはどんな工夫が必要だろう。 6 解決する方法を考え、話し合う ・個人思考→集団思考 ・「人・もの・こと」の視点で問いを抱かせる。 ・(個人→グループ→全体)	○魚を売らないと生きていけないことを捉える。 ○外国産の安い水産物を輸入している理由を理解する。 ○話し合う視点を絞らせる。 ○付箋紙を活用し考えを共有する	・主体的なグループ学習に向け、自分の考えを持つ。 ・輸送に掛かるコストについて考え、外国産の水産物が多い現状から課題について考える。 ・多様な考えを膨らませる。(個々が考えをもった上で話し合い、考えを比較しながら深める)
まとめ 5分	7 本時の学習を振り返り、次時への学びにつなげる ☆日本や沖縄、恩納村の水産業の為に自分たちが協力できることはないかな。 ・本時の振り返りを書く。 8 感想発表 ・本時の学びを学習した言葉などを使い発表する。	◎国が変われば費用も違うことを理解している。 【思・判・表】ノート・発言 ○次時につなげる問いを持たせる。 ◎学習したことを自分事として捉えている。 【主】ノート・発言	・安心して表現する。(個人の考えを、グループの中で表現し、安心して全体への発表につなげる)

2 仮説の検証

魚 1 匹に掛かる費用について知り、個人思考と集団思考の時間を確保することにより日本の水産業の問題が身近なことでも感じ、自分事として捉えることができるであろう。

1 本時の指導 (6/11時間:アナザーストーリー・転:意思決定)

(1) 本時のねらい

これまで調べたことから獲る漁業だけではなく育てる漁業が必要とされていることがわかる。

(2) 本時の展開

	学習内容と学習活動 ☆発問	○教師の支援 ◎評価【観点別】	対話を生み出すグループ学習に向けて
導入 3分	1 社会科用語フラッシュ型教材 ・前時の復習と本時の意欲づけ。 2 前時の復習 ・日本の水産業が抱える問題について確認する(環境悪化、他国のバランス等)。	○前時の復習と本時への理解と意欲を高める。 ○これまでの学習内容を振り返る。	
展開 前10分	3 生産量が今後も減っていくとどのような問題が起きるか予想する ・水産業者、消費者と両方の立場で考える。 ☆このまま獲り続けるとどんな未来が想像できるだろう。 ・課題明示 めあて 漁業生産量の減少をとめるにはどうしたらいいのか考えよう。	○自分事として考えるように促す。	・主体的なグループ学習に向け、自分の考えを持つ。
展開 前27分	4 解決する方法を考え、話し合う ・水産資源の減少にどう向き合うか考える。 ☆水産量の減少をどう解決することができるだろうか。 ・個人思考→集団思考 ・「人・もの・こと」の視点で問いを抱かせる。 ・(個人→グループ→全体) 5 水産量の減少を解決する1つの方法を知る ・教科書から「育てる漁業」について読み取る。 ☆身近にも何か取り組んでいることはないだろうか。	○話し合う視点を絞らせる。 ○付箋紙を活用し考えを共有する。 ○身近に存在する「海ブドウ養殖」を連想させる。	・水産資源の減少を自分事として捉え、解決への策を考える。 ・多様な考えを膨らませる。(個々が考えをもった上で話し合い、考えを比較しながら深める) ・安心して表現する。(個人の考えを、グループの中で表現し、安心して全体への発表につなげる)
まとめ 5分	6 本時の学習を振り返り、次時への学びにつなげる ・本時の振り返りを書く。 7 感想発表 ・本時の学びを学習した言葉を使い発表する。	◎水産業に携わる人々の悩みや願いを考え養殖業について理解している。 【知・技】発言・ノート ○次時につながる問いを持たせる。 ◎学習したことを自分事として捉えている。 【主】ノート・発言	

2 仮説の検証

個人思考と集団思考の時間を確保することにより獲る漁業だけではなく育てる漁業が必要とされていることに気が付き、日本における水産業の問題への解決策の1つでもある取り組みを身近な恩納村で取り組まれていることに興味・関心をもつことができるであろう。

1 本時の指導 (7/11 時間：アナザーストーリー・転：意思決定)

(1) 本時のねらい

恩納村の育てる漁業について調べることができる。

(2) 本時の展開

	学習内容と学習活動 ☆発問	○教師の支援 ◎評価【観点別】	対話を生み出すグループ学習に向けて
導入 3分	1 社会科用語フラッシュ型教材 ・前時の復習と本時の意欲づけ。 2 前時の復習 ・養殖漁業について確認。	○前時の復習と本時への理解と意欲を高める。 ○教科書や資料集を拡大提示し確認する。	
展開 前15分	めあて 養殖業にはどんな工夫や努力があるのか調べよう。 3 教科書や資料集から育てる漁業について確認する ・新しい語句を確認する。 4 教科書と照らし合わせ恩納村が養殖業に適した地域であることを確認する ・養殖漁業に適した環境であることを捉える。 5 養殖漁業の中でも「海ブドウ」力をいれている理由を考える ☆なぜ恩納村は「海ブドウ」に力をいれているのかだろう。 ・課題明示 ・調べる視点を絞るようにする。	○調べる内容をあらかじめ準備し視点を絞る。 ◎資料を活用して養殖漁業について調べることができる。【知・技】ワークシート ○新たな視点を与える。 ○付箋紙を活用し考えを共有する。 ◎守り育てる漁業に関心を持ち、「海ぶどう」養殖漁業や栽培漁業について理解しようとしている。 【主】 発言・付箋紙・ノート	・主体的なグループ学習に向け、自分の考えを持つ。 ・水産業に携わる人の願いや悩み、努力について自分事として捉え考える。 ・多様な考えを膨らませる（個々が考えをもった上で話し合い、考えを比較しながら深める）。
展開 後20分	6 恩納村の養殖漁業について調べる ・個人思考→集団思考 ・インターネットや資料から恩納村の水産業について調べる。	○事前に検索先や資料を配布する。	・安心して表現する（個人の考えを、グループの中で表現し、安心して全体への発表につなげる）。
まとめ 7分	7 本時の学習を振り返り、次時への学びにつなげる ・本時の振り返りを書く。 8 感想発表 ・本時の学びを学習した言葉を使い発表する。	○次時につなげる問いを持たせる。 ◎学習したことを自分事として捉えている。 【主】 ノート・発言	

2 仮説の検証

地域水産業の取り組みについて積極的に調べることができるであろう。

1 本時の指導 (8/11 時間)

(1) 本時のねらい

自然環境を生かした恩納村の「育てる漁業」について調べ、安定して提供できる養殖漁業や栽培漁業の工夫や努力に気付くことができる。

(2) 本時の展開

	学習内容・学習活動 ☆発問	○教師の支援 ◎評価【観点別】	対話を生み出すグループ学習に向けて
導入 5分	1 社会科用語フラッシュ型教材 ・前時の復習と本時の意欲づけ。 2 前時の復習 ・育てる漁業について確認する。	○前時の復習と本時への理解と意欲を高める。 ○教科書や資料集を拡大提示し確認する。	
展開 前15分	3 恩納村地域で行われている「育てる漁業」について調べる ☆恩納村の育てる漁業について調べたことをグループでまとめよう。 恩納村の育てる漁業について調べどのような願いや努力があるのか考えよう。 ・インターネットや資料から恩納村の水産業の特徴について調べたことを共有する。	○調べる内容をあらかじめ準備し視点を絞る。 ◎資料を活用して養殖漁業について調べることができる。【知・技】ワークシート	・主体的なグループ学習に向け、自分の考えを持つ。
展開 後20分	4 調べ学習を進めるあたり、疑問に思ったことや恩納村の水産業に携わる人に直接聞いてみたいことについて考え話し合う ・課題明示 ☆恩納村の水産業に携わる人たちの願いとはなんだろう。 ・個人思考→集団思考 ・「人・もの・こと」の視点で問いを抱かせる。 ・(個人→グループ→全体)	○新たな視点を与える。 ○付箋紙を活用し考えを共有する。 ◎守り育てる漁業に関心を持ち、「海ぶどう」養殖漁業や栽培漁業について理解しようとしている。 【主】発言・付箋紙・ノート	・水産業に携わる人の願いや悩み、努力について自分事として捉え考える。 ・多様な考えを膨らませる(個々が考えをもった上で話し合い、考えを比較しながら深める)。
まとめ 5分	5 本時の学習を振り返り、次時への学びにつなげる ・調べたことから抱いた疑問についてグループで話し合った内容について発表する。 6 次時の確認をする ・社会見学での学習する視点を確認し学習意欲を高める。		・安心して表現する(個人の考えを、グループの中で表現し、安心して全体への発表につなげる)。

2 仮説の検証

主体的・対話的なグループ学習の取り組みから、「郷土を愛し、我が国の発展を願い、将来を担う国民としての自覚の素地を育むことができるであろう」について、授業観察、ノートやワークシートの記述、まとめ新聞、検証授業前後のアンケート調査の分析を基に児童の変容がみられたか検証を行っていく。

1 本時の指導 (9・10/11 時間)

(1) 本時のねらい

恩納村の漁港を社会見学し、水産業における工夫や努力、携わる人たちの願いなどについてわかる。

(2) 漁協見学依頼事項

①育てる漁業及び生産から商品化まで

- ・モズクやアーサ、海ブドウなど養殖施設見学及び説明
- ・生産から商品化まで等、施設見学及び説明（見学できる範囲）

②地元市場の学習

- ・セリ市場の見学及び説明

(3) 本時の展開

	学習内容・学習活動 ☆発問	○教師の支援 ◎評価【観点別】	対話を生み出すグループ学習に向けて
1	山田小学校から出発		
2	恩納村漁協（前兼久漁港）着 ☆養殖漁業の工夫や努力、願いは何だろう。		
3	恩納村漁協（前兼久漁港）見学及び説明 ・育てる漁業及び生産から商品化まで。 ・モズクやアーサ、海ブドウなど養殖施設見学及び説明。 ・その他見学できる範囲での施設見学等	◎水産業について進んで調べようとしている。 【主】発言・ノート	
4	地元市場の学習 ・セリ市場の見学及び説明	◎海の資源を育てるために、自然環境を守ろうとするための工夫や努力、願いについて理解している。	
5	恩納村漁協 見学及び説明終了 漁港出発	【思・判・表】ノート・発言	
6	山田小学校着		

2 仮説の検証

これまで学習してきた内容と、実際に漁港を見学し見たり聞いたりしたことから地域水産業に携わる人たちの悩みや苦労、努力について考えることができるであろう。

1 本時の指導 (11/11 時間)

(1) 本時のねらい

恩納村の水産業に携わる人たちの思いを知り、地域を大切に思う気持ちは水産業だけに限らないことを理解し地域への愛情を深めることができる。

(2) 本時の展開

	学習内容・学習活動 ☆発問	○教師の支援 ◎評価【観点別】	対話を生み出すグループ学習に向けて
導入 5分	1 社会科用語フラッシュ型教材 ・前時の復習と本時の意欲づけ。 2 前時の復習 ・恩納村地域で行われている「育てる漁業」育てる漁業について確認する。	○前時の復習と本時への理解と意欲を高める。 ○社会見学の際に撮影した写真を拡大提示する。	
展開 前15分	3 地域水産業に携わる人たちの地域に対する思いを考え、自分達にも地域の為に協力できることはないか考える ☆恩納村の水産資源だけではなく海や山、恩納村地域を守るために協力できることはあるかな。 めあて 恩納村の育てる漁業について調べたことをまとめよう。	・地域水産業が抱える問題について理解している。 【知・技】発言・ワークシート	◆ これまでの学習を振り返り、自分たちがこれからとるべき行動について考える。
展開 後20分	4 学習の成果を個人新聞にまとめる ☆恩納村の育てる漁業について調べたことを個人新聞にまとめよう。 ・インターネットや資料、見学メモを活用し本単元を通して学習したことを整理しまとめる。	・自分事と捉え、恩納村や日本の水産資源の安定確保にはどんな課題や解決策があるかを適切に表現している。 【思・判・表】新聞づくり	
まとめ 5分	5 本単元の学習を振り返り、これからの自分たちの生活につなげる ・まとめた内容について発表する。 6 地域を大切に思う気持ちは水産業だけに限らないことを理解し地域への愛情について確認する。	◎学習したことを自分事として捉えている。 【主】ノート・発言	

2 仮説の検証

本研究仮説に基づき、地域水産業に目を向け、興味・関心を抱かせることにより、主体的・対話的なグループ学習の取り組みから、「郷土を愛し、我が国の発展を願い、将来を担う国民としての自覚の素地を育むことができるであろう」。